



ななかまど Vol.37



写真：本学実習室での授業風景

目次

■やる気を失うとすべてを失う 井野学長 …………… 2	■YOSAKOIソーラン ……………14～15
■情報メディア学部長あいさつ 中岡学部長 …………… 3	■ゼミ紹介……………16
■新任教員あいさつ…………… 4～ 5	■ボランティア体験記……………17
■平成18年度 入学式 …………… 6	■クラブ紹介・軽音楽部……………18
■特別講義の開催について…………… 7	■クラブ紹介・サッカー部……………19
■学生サポートセンターより…………… 8	■平成18年度情報通信月間……………20～21
■平成18年度公開講座 前期中間報告 …………… 9	■同窓生のページ……………22
■平成18年度公開講座 後期案内 ……………10～11	■財務報告……………23
■第16回 体育祭 ……………12～13	■主要行事等……………24



やる気を失うと、すべてを失う



学長 井野 智

W杯ドイツ大会で予選敗退した日本代表の新監督オシム氏は、日本人の特性である“俊敏さと勤勉さ”を最大限に生かすチームづくりを考

えているようである。俊敏さは別として、勤勉さとサッカーがどう結びつくか疑問であるが、日本再出発の拠り所を日本人の勤勉さにおいたオシム氏の発言は、サッカーだけでなく日本社会全体への貴重なメッセージである。

小、中、高の12年間はさておき、自分の将来を左右する学校教育の最終ステージとして、すべての学生諸君が残された大学生活を大切に過ごすことを願い、日頃感じていることを書き記したいと思う。

昨年、学長就任直後の入学式において「大学はスポーツジムと似ている。ジムは会費を払うとトレーナーの指導を受け、機器や設備を利用できるが、ジムに行き自ら運動しなければ、体重を減らし、健康を保持することはできない。お金で健康を買えないように、お金で学力を買うことはできない」と述べた。高い授業料を払いながら、あまりにも授業に欠席する学生が多い本学の現状を危惧したからである。

ご両親の学費負担を軽減するため多くの学生諸君がアルバイトをしている。勤務形態は様々で、深夜から早朝にかけての勤務や、授業と重なる時間帯の勤務も少なくない。このようなアルバイトは授業欠席過多、授業中睡眠などの原因となり、学業の著しい妨げとなっていることは言うまでもない。

僅かのカネを得るため、貴重な時間を費やしたあげく学習意欲を喪失してはいないだろうか。

Geld verringern, nicht verringern,
Zeit verringern, etwas verringern,
Mut verringern, alles verringern.

最後の行は“やる気を失うと、すべてを失う”の意味、ドイツの格言である。

一方、就職活動で忙しく、4年目の授業を公認欠席する学生も多い。所定の回数を超える欠席者の単位取得は認められていないが、このような学生にも多くの教員が特別指導を行い、チャンスを与えているのが実情である。

たとえば、私の担当科目「造形基礎」「メディア基礎(図形)」では、授業時間の1/3～1/2を講義内容の理解を深めるための演習に充てている。欠席者を含め、時間内に演習を終了できない学生には、遅れても完成作品を提出するよう指導している。助人となる友人がいない学生には授業と同じ説明を繰り返し、年度末には、卒業単位が足りない学生の救済に忙殺されることになる。

なぜそこまでやるかと訊かれれば、学生を受け入れた以上、大学には職業につくことのできる力をつけて社会に送り出す責務があるからと応えざるをえない。

授業は、毎回出席を前提として体系的に展開されるのが通例である。欠席すると次からの授業が難しくなるので、教科書で自習するか友人に教えてもらい、欠席時の穴を埋める必要がある。長い一生に比べれば、大学教育4年間で学べることは高が知れている。履修した科目全てをしっかりと勉強することが望ましいが、せめて1科目だけでも真面目に取り組み、“やればできる”という自信をもって卒業してほしい。

2005年度の日本アカデミー賞全部門で優秀賞を受賞した映画『Always 三丁目の夕日』のCGとモーションキャプチャーを担当した本学の二人の卒業生が「卒業してすぐにこのような仕事に従事できたのは北海道情報大学の恵まれた施設と指導による」と明言している。

本学で学ぶすべての学生諸君が、美しい自然に囲まれた素晴らしい教育環境をフルに活用し、将来、実社会で存分に活躍できる学力と体力と人間性を養ってほしいものである。

ユビキタスコンピューティングへと 進化するIT社会を支える人材の育成

情報メディア学部長 中岡快二郎



本年平成18年度から情報メディア学部長に就任させていただくことになりました。よろしくお願いたします。

最初に、簡単に自己紹介をさせていただきます。私の生まれは兵庫県北部の町で、人工飼育で育てたコウノトリを自然に帰したことで話題となった豊岡近辺だといえれば分かっていたかもしれません。昭和43年北大工学部を卒業後、ほぼ21年間助手、講師として同学部電子工学科に勤務いたしました。北海道情報大学が開学した平成元年9月、教授として経営情報学部情報学科に赴任し、平成13年4月新設された情報メディア学部情報メディア学科に配置換えとなり現在に至っております。この間、本学学生部長、情報学科主任、情報メディア学科主任、情報センター長を勤めさせていただきました。

情報メディア学部が新設された頃は、まだインターネットが今ほど普及していませんでした。現在では幅広い世代にわたって当たり前のように使われている携帯電話による電子メールのサービス（ドコモのi-mode）が始まったのは平成11年2月で、その当時の契約者は全国で10万人超程度だったと思います。

情報メディア学部は、このような時代背景の中で、インターネットの情報インフラとしての重要性を認識し、需要の増加が予想されたインターネットの基盤技術者とWebコンテンツ作成技術者を育成する目的で生まれました。

情報メディア学部が創設されて早くも7年目に入り、今年3月で2回目の卒業生を社会に送り出すことができました。昨年まで就職の冬の時代が続いていましたが、幸いにも本学部は1期生、2期生共に99%のきわめて高い就職率を達成させることができたことは、まことに喜ばしいことでした。学生の就職への意識の高さと教職員の努力とが相まって結実した結果であると思います。

この7年間に、インターネットを取り巻く環境は大きく進化し、変貌してきました。中でも携帯電話に関する技術は大幅な広がりを見せ、本格的なマルチメディア端末へと進化しています。さら

に、TVのデジタル化によりインターネットとTVメディアが統一される環境が整備されてきています。このようなIT環境を基盤として何時でも何処でもコンピュータを利用できる「ユビキタスコンピューティング」を実現するためには、情報の表現とデザイン、マルチメディアコンテンツの制作技術、コンテンツを配信するためのWebサーバ構築とWebアプリケーション開発技術が、また、システムを安全に運用するためにはネットワーク管理とセキュリティ技術などが必須なものとなります。このようなIT社会の変貌に対応するために、情報メディア学部は、平成17年度から新しいカリキュラムを作成いたしました。新カリキュラムの基本方針として、「メディア表現コース」と「メディア技術コース」を設け、実習と演習を多用することで実践的な知識と技術を修得できるよう配慮しています。また、初学者でも無理なく大学教育に入られるように一般基礎教育および専門基礎教育にも重点を置いたカリキュラム構成を実現しています。

このように急速に進歩し、数年前の技術、知識が古くなってしまいうIT社会の中に在っても、それらの変化に対応できる基盤となる知識、技術、方法論を修得することができる人間教育を目指しております。この目標を実現するために、情報メディア学部全教員が一丸となって努力して行きたいと思っていますので、今後とも皆さまのご協力のほどよろしくお願いいたします。



新任教員

ナンバー・ワンよりオンリー・ワン!

情報メディア学部
教授
大島 康彰



北海道に移り住んで10年を過ぎたこの4月より北海道情報大学という若々しい舞台に参加することになり、ワクワクと弾む気持ちを抑えることができません。働く環境が変わるのはもう5回目になります。大学では機械工学、修士の時代に工業デザインを学び、就職した会社では自動車やオートバイのデザインを通じアナログ手法でのモノ作りの楽しさと難しさを味わいました。次に勤めた文具の会社でCD-ROMコンテンツを手がけた事からデジタルとネットワークの可能性に興味を湧き、クリエイティブツールとしてのコンピューターと向き合うこととなります。自動車というハードを創り、コンテンツというソフトを創ってきたわけですが、これからは教育を通して「人間」の可能性を創るという究極の創造に関する喜びを味わうことで、私自身も成長することが楽しみです。「良いデザイン」とは形や機能といった物質面だけでなく目的や意味性といったソフト面とのバランスが取れているものと言われる。しかし、それが即ち「魅力的なデザイン」であるとは限りません。欠点があっても突出した魅力をひとつでも持つ方が愛着を持たれる場合もあるのです。デザインという言葉には「設計する」という意味がありますが、学生諸君も自分をデザインする途上である現在、自分の得意や長所を磨くことで他人に負けない魅力的な人材になって欲しいと思います。皆さんが自信を持って勉強できるよう、私は出来る限りの応援をします。

情報の大学の情報の教育

情報メディア学部
教授
原 暉之



高校までの学校と大学との違いはどこにあるのでしょうか。さまざまな答えが可能でしょうが、大学という組織の一つの重要な特色は、その存立の根拠たるべきミッション（使命）にある、というのが私の答えです。とくに私立大学の場合は、それぞれ建学の基本理念に根ざした個性的なミッション・ステートメントを社会に発信し、その点が「私大らしさ」を醸し出す源泉となっているように思います。私ははじめて就職して以来、最初の16年間に公立大学、次の19年間に国立大学で過ごしたあと、私立大学に参りましたので、国公立とは異なる本学の「私大らしさ」について、常日頃こんなことを考えさせられるのです。北海道情報大学のミッションは、簡潔に表現すれば「国際化情報化社会に対応できる人材育成」というものですが、深刻な少子化の時代を迎えつつあるいま本学の構成員に求められるのは、この簡潔な定式により豊かな肉付けを与え、魅力あふれるユニークな大学を作ってゆくことだと思います。そう考えたとき、私はふと本学の創立者とその著作の副題につけた「情報リテラシー」というキーワードに思い至りました。「情報」を掲げる大学、「情報の総合大学」を目指す大学にふさわしい「情報リテラシー教育」とは、どのようなものでしょうか。これまで関わってきたのは、もっぱら人文科学の分野でしたので、本学に着任した機会に「人文」と「情報」の接点に関わる問題を考えてみようと思います。

着任にあたって

医療情報学科
講師
長尾 光悦



平成18年4月1日付けで、経営情報学部医療情報学科に着任しました長尾光悦（ながおみつよし）です。略歴は、平成13年4月に北海道大学大学院工学研究科システム情報工学専攻博士課程を修了、同年9月から平成15年3月まで北海道大学大型計算機センターに勤務し、平成15年4月から北海道大学情報基盤センターに配置転換となり3年の勤務を経て、現在に至ります。

研究テーマは、これまでいろいろと手がけてきました。画像検索システム、顔画像によるバイオメトリクス認証、Web情報統合システム、Webサービス型大型計算機システム、

あいさつ

これは絶対無二の一球なり

情報メディア学部
助教授
向田 茂



4月1日付で情報メディア学部に着任いたしました向田茂です。「むかいだ」と読みます。どうぞよろしくお願ひします。3月までは、京都にあるATR人間情報科学研究所に在籍していました。京都といっても金閣寺や京都御所などのある、「これぞ京都!!」という場所ではなく、京都と大阪、奈良の県境に位置する「けいはんな学術研究都市」というところです。そんな京都、大阪、奈良の端で何をしてきたかという、画像処理による顔の合成に関する研究を行ってまいりました。さて、私は大阪生まれの奈良育ちです。奈良というところは、気温は氷点下にはめったになりません。雪もほとんど降らず、積もってもせいぜい数センチです。つまり、雪に対する抵抗力はゼロなのです。みなさん、冬が近づいてきたら「大丈夫だよ。」と励ましに122研究室まで来てください。冗談はさておき、私の好きな言葉に、「この一球は絶対無二の一球なり。されば心身を挙げて一打すべし。」というものがあります。これは、早稲田大学テニス部OBの福田雅之助氏が母校のテニス部に贈った言葉だそうです。同じボールは二度と来ないので、一球一球を大切にプレーしなさいということですね。人生も然り。すべての出来事は唯一無二の出来事です。貴重な大学生活の4年間を存分に学び、楽しんでください!!

最後に抱負を一言。京都ではバーチャルな世界で『顔』を作ってきましたが、北海道ではリアルな世界で『情報大の顔』となる優秀な学生たちを育てて行きたいと思っています。

GPSによる観光動態調査など多岐に渡っています。現在は、主に観光情報学の研究テーマを手がけています。

本学では、医療情報学科のコンピュータリテラシ、野幌高校との高大連携のコンピュータリテラシ等を担当します。楽しい講義を目指して試行錯誤していきたいと思っていますので、学生の皆さん宜しくお願いします。試行錯誤中なので、講義でダダすべりをしてしまうことがあるかもしれませんが(既にあります)…(ToT)、暖かい目で成長を見守って下さい(笑)。

また、教職員の皆様には様々な場面でお世話になりますが、宜しくお願い申し上げます。

私は、新しいものや変化が大好きです。色々な意味で情報大学におけるバイオニア、イノベーターになっていければと思っています。もちろん良い意味で(笑)。

「医療情報学科」開設

医療情報学科
教授
中林 秀和



新しく開設されました「医療情報学科」に、北大院・医・分子生物学講座より着任致しました。医療と情報科学を融合した学科は全国にも少なく、本年新入生を迎えたばかりのゼロからの出発です。教職員の皆様の暖かな御支援を戴き、新学科の開設と発展に寄与できればと考えています。

私は愛知県岡崎の出身で、岡山大学理学部を卒業後、岡山大学医学部・癌研病理部門助手としてガン基礎研究を始めました。1985年にカナダ・カルガリー大学医学部に留学後、1988年に岡山大を退職し永住を覚悟して再度カナダに渡りました。カルガリー大学内に開設された日本抗体研究所(大塚製薬)を経て、1997年に北大・医・生化学講座助手として日本に戻って参りました。この間、「ガン胎児性タンパクの遺伝子発現機構の解析」を研究テーマとして分子生物学を学んで参りました。かなり波乱万丈の生涯で、ここ本学で落ち着くことを心より願っております。多くの場所で様々な経験を積んで参りましたが、どうも役に立つ経験は乏しいようで恐縮しております。今後、生化学実験室も準備される予定で、直接DNAを扱う実習も計画しています。

学生の諸君には広い視野を持ち、何事にも勇気を持ってchallengeする人間になって貰えればと、多少の経験を伝えて行きたいと思ひます。素晴らしい自然の中で、皆様と共に学んで行くことができ心より嬉しく思ひます。

今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。

平成18年度 入学式

4月5日(水)午前10時から、松尾記念館講堂において、経営情報学部の新設された医療情報学科の第1期生も加わり、平成18年度北海道情報大学入学式が行われました。

入学式の模様は、保護者控室の各教室、そして、全国13か所にある通信教育部の教育センターにも生中継され、多くの保護者や教職員に見守られる中、900名余りの新入生が、情報大学生として、新たな大学生活をスタートさせました。

井野 学長は、「大学はスポーツジムと似ています。ジムは、会費を払えばトレーナーの指導を受け、機器や設備を利用できますが、ジムに行き自ら運動しなければ、体重を減らし、健康を保持することはできません。お金で健康が買えないように、お金で学力を買うことはできないのです。本学は、IT分野では、他の追随を許さぬ最先端の教育環境を学生諸君に提供してきました。2005年度の日本アカデミー賞の6部門中5部門で受賞を果たした映画『Always 三丁目の夕日』のCGとモーションキャプチャーを担当した



祝辞を述べる松尾理事長

二人の本学卒業生が、「卒業してすぐにこのような仕事に従事できたのは北海道情報大学の恵まれた施設と指導による。」と明言しています。国内有数の本学の教育環境をフルに活用し、将来、実社会で存分に活躍できる学力と体力と人間性を養ってください。」と新入生に激励の言葉を贈られました。

松尾 理事長は、「デジタル技術やインターネットをはじめとするネットワーク技術など、情報通信技術の進歩は著しく、地球規模の情報化と国際化は、予想をはるかに上回るスピードで進展しています。21世紀はまさに、地球レベルの『情報革命』の時代であり、新入生諸君は新たな時代の創造に挑戦できる絶好の機会を得たのです。新入生諸君には、時代の方向性をしっかりと見据え、自信と誇りを持って、明日からの学生生活に若々しく、大胆に取り組み、悔いのない充実した4年間を過ごされることを切に希望いたします。」と祝辞を述べられました。その後、新入生代表として、菅野達也さん(経営ネットワーク学科)が、これからの学生生活の抱負について宣誓しました。

(総務課)



告辞を述べる井野学長

特別講義(ファイナンス)の開催について

ファイナンスに関する札幌及び東京サテライトにおける「公開講座」の盛況を鑑み、通信教育部特別講義(面接授業)を東京会場で実施することになりました。

日本の金融資本市場・証券投資のホットな内容を東京で実施することで多彩な講師の確保を容易にし、受講生は、通信教育部学生のほかに一般の方を聴講生として含めて行います。

特別講義は、8回にわたり本学の玉山和夫教授が主任講師を担当され、毎回ゲストスピーカーをお迎えし講義を進めます。ゲストスピーカーは、日本の金融資本市場の第一線で活躍されている専門家の方々に、豊富な実務経験に基づいた、分析を通し、日本の金融資本市場・証券投資に対する理解を深めることができるものと考えています。

(通信教育部)

1. 科目名・担当教員

特別講義(ファイナンス) 面接授業

主任講師 玉山 和夫 教授

2. 会場

東京都中野区中野 eDCビル 地下1階 セミナールーム

3. 日程・時間

平成18年10月23日(月)～平成18年12月11日(月) 全8回

毎週月曜夜 1回あたり 18:30～21:45 (2コマ)

4. ゲストスピーカー

ゲストスピーカー	所 属	講義内容(予定)	回数
山田 伸二	NHK解説委員	日本経済	1
森山 昌俊	三菱UFJリサーチ&コンサル	アメリカ経済	1
山崎 元	楽天証券	投資の非常識	1
梅沢 利文	トムソンコーポレーション	ヘッジファンド	1
児玉 万里子	三國事務所アナリスト	格付けと市場	1
箱崎 真紀子	ラッセル・インベストメント	日本の年金運用	1
芳賀沼 千里	野村証券	投資戦略	1
湯本 崇雄	日本銀行 情報サービス局長	日本の金融情勢	1

お問い合わせ 北海道情報大学通信教育部

学 生 サ ポ ー ト セ ン タ ー よ り

～まだ内定を得ていない4年生へ～

まだ内定を得ていない4年生は、ぜひ学生サポートセンターへ相談に来て下さい。学生サポートセンターでは大学に来ている求人はもちろん、その他の求人についての斡旋も行っています。また、就職活動における悩み相談、面接のレッスン、履歴書の書き方指導等も行っていますので気軽に来室して下さい。

本年度は新聞紙上等では売り手市場と言われ、また本学の求人数も前年より約30%増加し2000件を超え、学生にとっては就職しやすい環境と思われがちですが、北海道の景気の回復は遅れており

道内での就職は難しいことに変わりありません。本学の7月24日現在の内定率は62%と昨年比19.1%増で推移していますが、求人状況が好転している関東方面の企業に内定をもらっている学生が多いです。まだ内定を得ていない学生は、道内勤務にこだわらず勤務地の幅を広げることが内定への近道になることは間違いありません。秋、冬と時期が遅くなると、就職活動も非常に厳しいものとなります。内定獲得まで、最後まで諦めずに活動を続けていきましょう。

～学部3年生・大学院1年生対象～

【就職指導スケジュール】

5月から実施しています就職指導スケジュールの後期の予定は以下のとおりです。この就職指導（キャリアサポート）にきちんと出席した学生は、早い時期に内定をもらい、希望する会社に入ること

ができる傾向にあります。会社訪問等の実際に行動しなければならぬ就職活動は遅くとも来年の2月からスタートしますので、そのための準備としてこの就職指導は休まずに出席しましょう。

【後期】

日 程	就 業 指 導 ・ 講 演 ・ 模 擬 試 験 の 内 容 等
9/22(金)	5 講目 第5回就職説明会（就職希望登録・資料請求）
9/29(金)	5 講目 第3回一般常識テスト
10/6(金)	5 講目 S P I ・ 筆記試験対策講座
10/13(金)	5 講目 S P I 試験
10/20(金)	5 講目 S P I 解き方講座
10/27(金)	5 講目 第6回就職説明会（履歴書作成指導）
11/10(金)	5 講目 第7回就職説明会（自分について表現してみよう）
11/17(金)	5 講目 論文文試験
11/24(金)	5 講目 第8回就職説明会（アクションを起こそう実務編）
12/1(金)	5 講目 第9回就職説明会（アクションを起こそうマナー編）
12/8(金)	5 講目 第10回就職説明会（面接試験対策①）
12/15(金)	5 講目 就職特別講演&就職体験談
12/22(金)	5 講目 第11回就職説明会（面接試験対策②）
H19	
1/11(木)～12(金)	第1回履歴書用写真撮影及び女子学生メイク指導
1/12(金)	5 講目 第12回就職説明会（就職活動直前ライブ）
1/30(火)～2/1(木)	個人面談
2/1(木)	第2回履歴書用写真撮影

平成18年度公開講座 前期中間報告

本学が公開講座を実施してから今年で3年目になります。初年度1講座で始まった公開講座も2年目、3年目と次第に充実されて、今年は前期6講座、後期9講座が計画されています。前期の講座のうち、すでに3講座が終了しました。

6月3日(土)、4日(日)に実施されたのは「デジタルカメラで写真を楽しむー撮影と加工ー」でした。講師は本学非常勤講師の北島優先生です。21名の参加があり、初日はデジタルカメラの仕組みや従来のカメラとの違いなどを教室で学び、その後実際にキャンパスで撮影してみました。講義の内容は基本的なことからはじめましたが、従来のカメラで撮影を趣味としていた参加者も多く、質問などは結構深い内容にまで及んでいました。2日目はデジタルカメラで撮影した写真のコンピュータ加工に挑戦です。全体を明るくする、暗くするなどの基本的な調整から、夕暮れの色を淡い夕暮れからとっぷり暮れた夕暮れまで自在に調整したり、流水の写真で氷の色を青みがかった白から透明感ある白にまで操ったりしてみました。また文字の入れ方なども学び、最後はそれぞれ自分の写真に様々な加工を施しました。表情を様々に変えるデジタル写真に参加者は新しい興味を見いだしたようです。

5月9日(火)から毎週火曜日に8回連続で実施されたのは、「投資って、何?ーポートフォリオ・マネージャーの実践的投資論ー」です。講師は本学経営情報学部教授の玉山和夫先生。40人の定員に93名の応募があり、大変盛況でした。現在個人投資家向けの、こうすれば儲かりますという内容の書籍や講習などが数多く行われていますが、それとは一線を画したものを提供しようということで、投資の基本から、金融論や経済学にまで及ぶ広い意味での投資の基本を学ぶ講習会となりました。資料は毎回10枚前後のプリントが配布され、終了時には100ページ程の枚数となりました。その内容も各種チャートや年表など、投資の判断材料に有益なものが多く、受講者の方にとっても貴重な資料となったようです。毎回の講座の最後には質問が数多く寄せられ、真剣に勉強している受

講者の活気に満ちた講習会でした。

6月24日(土)、7月1日(土)の2日間にわたって開催されたのは、「文化から見た日本と世界」です。昨年度好評だったため、今年も引き続き開催となりました。本年度の1日目は本学情報メディア学部助教授チャールズ・マクラート先生「文化から見たアメリカと日本」と、同助教授田中英夫先生の「日中メディアの靖国問題に対する報道」が行われました。2日目は経営情報学部教授梅津真先生の「文化から見たドイツと日本」と、同教授原暉之先生の「日本のロシア語・ロシアの日本語ー教育研究の現場からー」です。アメリカ、中国、ドイツ、ロシアとそれぞれその国の出身であったり、または滞在経験のある教員の話に、参加者も興味深く話を聞いていました。

今年の傾向としては、参加希望者の多さがあげられます。多くの市民の方に本学の公開講座の存在が浸透してきたためといえるでしょう。今後も多くの講座が計画されています。一人でも多くの市民の方が楽しんで、また新しい興味を開拓していただけるような講座を実施していきたいと思えます。

(総務課)



平成18年度北海道情報大学

平成18年度後期の公開講座を次の通り実施予定です。受講料はすべて無料です。

申し込み問い合わせ先 北海道情報大学 総務課 企画交流係

電話：011-385-4411(代表) / ファックス：011-384-0134

e-mail：kikaku@do-johodai.ac.jp

1. 北海道情報大学東京フォーラム

日 程	場 所	対象・定員	講 師
9月15日(金) 18:30~20:30	東京サテライト (東京都中野区 中野5-62-1 ED Cビル地下1階)	一般100名	丸紅経済研究所所長 柴田明夫 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 投資調査部長 嶋中雄二 横浜国立大学大学院教授 岡田依里 北海道情報大学教授 玉山和夫

内容：経済問題や投資業務の最前線で活躍する方に加えて、最近注目を集めている知財の専門家をお招きして行うフォーラム。後期に東京で行う特別講義のプレフォーラムとしても位置づけられます。

2. プログラミング入門-Java-(全4回)

日 程	場 所	対象・定員	講 師
10月11日(水)・14日(土) ・18日(水)・21日(土) 水曜日 18:30~20:30 土曜日 9:30~12:30	本学実習室1	一般(プログラ ム初心者) 20名	北海道情報大学助教授 齋藤康彦

内容：「コンピュータは使えるけれど、プログラミングは分からない」という方を対象に、Javaプログラミングの入門を講義します。

3. 国際理解講座シリーズ1 「時空の旅人」 -タウン&ガウン-

日 程	場 所	対象・定員	講 師
11月2日(木) 12:55~14:25	本学	学生・一般 定員未定	東北大学大学院教授 深澤百合子 北海道情報大学教授 玉山和夫

内容：イギリスケンブリッジ大学出身の東北大学大学院・深澤百合子教授をお招きして国際理解を深めるための講演シリーズ1回目。肩肘張って「学習」するのではなく、身近な話題から世界に目を向けます。

4. デジタルカメラで写真を撮楽しむ -撮影と加工-②(全2回)

日 程	場 所	対象・定員	講 師
11月18日(土)・19日(日) 13:00~16:00	本学	一般(初心者) 10名	北海道情報大学非常勤講師 北島優

内容：1日目は、デジタルカメラで撮影する技術についてプロから講習を受け、実際に屋外で撮影してみます(雨天の場合は屋内)。2日目はそれらの写真のコンピュータ加工に挑戦します。年賀状用に写真を加工してみましよう。デジタルカメラを持参できる人対象。

後期公開講座参加者募集

5. 特別講演会「会計基準の国際的統合化と日本企業への影響

－米国会計基準と国際財務報告基準との更なる統合化の進展－

日 程	場 所	対象・定員	講 師
11月21日(火) 10:40~12:10	本学 松尾記念館講堂	学生・一般 300名	国際会計基準審議会理事 山田辰己

内容：昨年に引き続き、国際会計基準審議会(本部ロンドン)の山田辰己理事をお招きして実施します。国際会計基準審議会は世界標準となる国際会計基準を審議している機関で、その理事は世界中から集まった14名で構成されています。今回は、現在世界規模で進展している会計基準統合化の現状と日本企業への影響を講演します。

6. コンピュータで年賀状を作ろう①(全2回)

日 程	場 所	対象・定員	講 師
12月9日(土)・10日(日) 13:00~16:00	札幌サテライト	一般(初心者) 10名	北海道情報大学職員 吉村美穂

内容：ワープロソフトのWordを使って、自分自身のデザインで年賀状を作成してみましょう。一度覚えると、次は自宅で作成できるようになります。初心者対象。受講者が持参した年賀状はがき(50枚まで)に印刷も行います。1日目作成、2日目印刷の予定です。

注) 翌週の16日・17日に行われる講座は同じ内容です。2週続けて参加することはできません。

7. コンピュータで年賀状を作ろう②(全2回)

日 程	場 所	対象・定員	講 師
12月16日(土)・17日(日) 13:00~16:00	札幌サテライト	一般(初心者) 10名	北海道情報大学職員 吉村美穂

内容：上記の前の週に実施するものと同じ。

注) 前週の9日・10日に行われる講座は同じ内容です。2週続けて参加することはできません。

8. 国際理解講座シリーズ2「時空の旅人」ーケンブリッジでお茶をー

日 程	場 所	対象・定員	講 師
平成19年1月9日(火) 時間未定	札幌サテライト	一般 40名	東北大学大学院教授 深澤百合子 北海道情報大学教授 玉山和夫

内容：イギリスケンブリッジ大学出身の東北大学大学院 深澤百合子教授をお招きして国際理解を深めるための講演シリーズ2回目。イギリスはハイティーンの霧田気で、一緒に見識を広めていきませんか。

9. 数学屋の見た天気

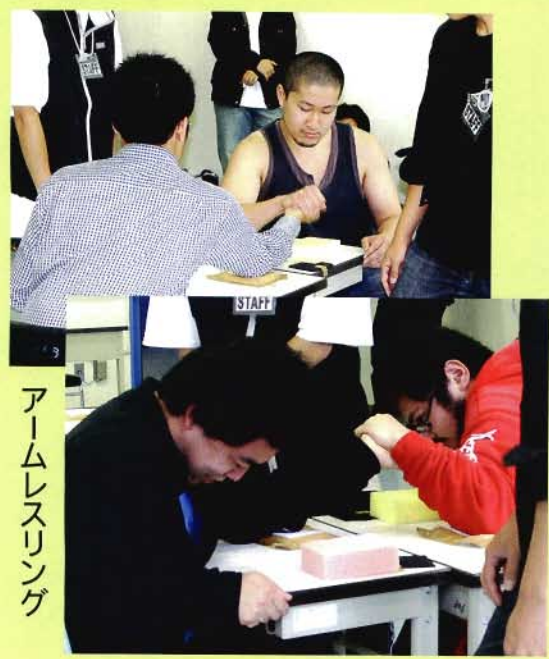
日 程	場 所	対象・定員	講 師
平成19年3月10日(土) 15:30~17:00	札幌サテライト	一般 40名	北海道情報大学教授 松井伸也

内容：最近、地球規模で異常気象が次々とおこっています。天気予報とは、地球上の空気、海水などの流れを知ることです。これらの流れはナビエ・ストークス方程式という形でまとめられています。この方程式と天気との関係を数学屋さんがどのように考えているかを解説したいと思います。

第16回 体育祭

平成18年6月21日(水)・22日(木)

サッカー



アームレスリング



バスケットボール



ダーツ



ソフトボール



テニス





今年のポスター



スタッフのみなさん

体育祭を終えて

6月21日22日の二日間にわたり体育祭が行われました。雨が降ったり止んだりの天気で両日ともに外競技に遅れがでました。特に二日目のグラウンドはぐちゃぐちゃで競技続行できるのかと危ぶまれましたが、参加者のありがたいグラウンド整備のお手伝いもあり、なんとか終えることができました。

今年はサッカーとソフトボールを、今までクラス単位の出場だったのを任意参加エントリー制で行い、これまで印刷から製本まで手作りだったパンフレットを印刷業者に発注したりと、新しいことをやろうとする流れ、実行委員も一歩一歩進化しているように思います。実行委員の仕事は大変で、組織の中でやっていく人間関係も難しいですが、やりがいがありました。

お世話になった学生サポートセンターの方々、何度も倉庫の鍵を開け閉めしてくれた守衛さんの方々ばさつく寒い雨の中、審判をやってくれた各部活動の皆様、ありがとうございました。

実行委員長 経営ネットワーク学科3年 千葉祐明



参加者をねぎらう玉置学生部長

卓球



戦いすんで…



バドミントン





祝 セミファイナル

平成18年6月7日(水)～11日(日)まで、第15回YOSAKOIソーラン祭りが札幌市で開催された。本学は地元江別市のチームと合同でチームを結成。「江別まっことええ&北海道情報大学」となっているから、今回で4回目の出場となった。

本年から、運営方法が若干変わり、昨年までは行なわれなかった「セミファイナル」が行われた。

これは、出場350チームを10ブロックに分けて、審査が行なわれ、ブロックで1位のチームがファイナルコンテス



2006 YOSAKOI ソーラン



大学入って早いもので、いつのまにやら4年生の私。学生最後になるYosakoiソーラン祭りに全力を持って参加いたしました。今年は踊り子リーダーという、皆に踊りを指導する立場で始まり、過ぎてみればあっという間の練習期間。結果はセミファイナル8位という好記録で終わり、共に汗を流してきた仲間たちと涙を流し、その結果を噛み締めました。

Yosakoiソーランやってよかった。みなさんありがとうございました。のこりのイベントもよろしくお祈りしま〜す。

システム情報学科 4年 萩野 哲欽

イナル進出!

トへ進出。1位には届かなかったが、2位になった10チームと、観客審査で1位になったチームと合わせて11チームが「セミファイナル」に進出するものである(但し、ブロック2位でなおかつ観客審査で1位の場合は、10チームの参加となります、今回は10チームでした)。

セミファイナルに進出すると、大通西8丁目のステージで演舞を行なうことができ、なおかつ賞の受賞もある。本学は、惜しくも8位であったが、出場350チーム中堂々のベスト20入りを果たした。



今回、「江別まっことええ & 北海道情報大学」というチームとして、札幌で行われたYOSAKOIソーラン祭に出場しました。私は今年で踊り子2年目なのですが、何度お祭に参加しても雰囲気は最高でした。沢山のお客さんの声援が力となり、力強い演舞ができました。練習は今年の2月頃からスタートし、約4ヶ月間ほぼ毎日練習でした。大変でしたけど、この練習の成果が実ってなんとセミファイナルに出場する事が出来ました。結果は自分達の納得のいくものではありませんでしたが、そこで感じた悔しさや達成感はきっと一生忘れられない物となるでしょう。皆さんも是非YOSAKOIで味わう感動を一緒に体験しませんか？

システム情報学科 3年 菊地 栄輔

関ゼミには、現在（平成18年2月）4年生9名、3年生8名が在籍しています。女性は、現在、僅か1人で希望者は少ないです。私の性格が嫌なのでなく、数学が嫌いなのだ勝手に決めて慰めております。

ゼミ生募集のとき、関ゼミに所属を希望する学生には、「ゼミは欠席しない。約束を守る。嘘を言わない。恥を知る。人の悲しみを知る。」などの硬い注意を与えています。

卒論テーマは数学を使う内容であれば、何でも良く多種多彩です。例えば、商品の売り上げ予測があります。今の世の中、移り変わりが激しくて、新しい製品が出て急激に売り上げを伸ばしたかと思うと次の年には消えていたという現象があります。ゲーム機が、それに当たります。このような変動を、微分方程式に乗せるのは極めて困難です。最近、微分方程式モデルを使って、理論値とデータ値とが良く一致するという論文が発表されていますが、数学が好きで長い計算を粘り強く続ける気力体力がなければ理解できないでしょう。誰か

挑戦してみませんか。3年生の中には、アインシュタインの一般相対性理論を勉強している人がいます。また、殺人事件が起きたときの殺害時刻の推定も面白いテーマだと思います。

関ゼミは、どちらかと言うと元気で賑やかなゼミだと思います。特に、2年前の卒業生は他ゼミと違って飛び切り元気が良くコンパの数は数え切れず、ゼミ担任抜きの自主コンパも多かったようです。大学全体に言えることかも知れませんが、それ以後は学生が大人くなりました。今は、年に1、2回コンパをやっています。数学の好きな人間は奇人変人が多く中々つきあいが難しい面がありますが、我がゼミ生は、酒を飲みながら話すで大変ささくで面白い連中です。将来の大物ばかりです。



紹介

関ゼミ

担任 関 正治

山北ゼミ

担任 山北 隆典

主にデータ工学分野の課題に取り組むゼミナールである。画像検索や3DCGデータの活用、DBMSの利用技術などにかかわってきた。今年もさまざまな学生が卒業研究に挑んでいる。情報技術に興味のある優秀な学生が所属している。それだけではない。ペットショップで働きたい学生、福祉関連に興味のある学生、映画に興味のある学生、何をすれば良いのかわからない学生、情報技術と聞くと目をそらす学生、何もしたくない学生…。そういえば、この春に巣立ったゼミ生にも、大学院を目指した学生、研究内容を企業秘密にする学生、



他の研究室に入り浸る学生、何かと説教したがる学生、どんなことがあっても北海

道から出たくない学生、パチンコで稼ぎまくる学生、フィギュア集めに大金をつぎ込む学生、ドーナツが大好きな学生、などなど。「？」マークの目白押しである。我がゼミナールは動物園かサーカス小屋かと思ってしまう。しかし、そのような尋常ではない（と指導教員が思ってしまうほどの）個性が集うところに、ある意味、底知れぬ面白さがある。個性的なアイデア、個性的な研究を生み出す土壌はまさに整っていると思っている。いつ学生たちが「化ける」のか、毎年の楽しみである。昨年は卒論提出後も研究室を訪ね、議論を続けた学生がいた。彼らの個性と個性が触れ合いあえば大きな成果につながるに違いない。今年も、あるときは飼育係のように、あるときは調教師のように学生と戯れているが、指導教員はまだまだ不満である。いったい、いつ「化ける」のか。我がゼミナールはお化け屋敷でありたい。我がゼミナールは単なる動物園ではないのである。主にデータ工学分野の課題に取り組むゼミナールなのである。

ボランティア体験記

情報メディア学科 3年 川口 隼人

僕は去年から、友人の倉持君と柏木君と一緒に様々なボランティア活動をしてきました。最初の活動は去年、札幌の大通りで開かれたクリスマス市での皿洗いでした。1年生と2年生の時に梅津先生にドイツ語を教えてもらっていたため、ドイツに強い関心を持つようになり、バイエルンミュンヘン・クリスマス市を見ようと思って出かけたのですが、その時に「ボランティアをやってみないか？」と声をかけられたのが全てのはじまりでした。お皿を洗う仕事は単純作業でしたが量がものすごく多く、かなりきつい仕事でした。しかし、そこで僕は他の大学の友達や主婦、ドイツ人のビアンカさんと知り合うことができました。また差入れのケーキやホットドッグの美味しさは格別でした。

その数週間後、クリスマス市で知り合った小林さんから新しいボランティアを紹介されました。彼は日本とドイツの国際交流関係の仕事をしている方で、今度、あいの里サポートセンターとアクティビティセンターで「ニューイヤーパーティー」があるので、手伝ってみたいかと声をかけてくれたのです。ステージでは、劇、合唱、演芸などが披露され、招待した梅津先生も満足してくれたようです。そこでの仕事は、会場のお客さんにコーヒーや紅茶を作って出すという仕事でしたが、お客さんから「おいしい」と言ってもらえ、とても嬉しかったです。パーティーの後の食事会では、ヤン・オチコさんという、ボランティア活動をするためにドイツから日本に来た男性と知り合うことができました。大学の授業で学んだドイツ語を使って話したり、日本語を使って様々な質問をしたり、大いに盛り上がりました。

それからしばらくして、

今度はビアンカさんの講演会があるというので倉持君と一緒に聞きに行きました。講演会ではドイツの文化や生活などがテーマとして取り上げられ、徴兵制度のことも紹介されました。軍隊の訓練とボランティア活動の、どちらか一方を選択する制度があり、大多数の若者が後者を選択するため、結果的に多くの市民の生活が彼等のボランティア活動に支えられているという意外な事実を知りました。日本との違いを知ることができ、貴重な経験になりました。

先日、ヤンさん達がドイツへ帰ることになり、さよならパーティーがありました。ドイツ料理を食べたり、ワールドカップの話をしたり、とても楽しかったです。でも、もう日本で会えなくなると思うと少し寂しくなりました。今度は自分が彼らと会いにドイツへ行こうと思います。

僕はボランティア活動を通じて様々な人と出会いました。普通に大学生活をしていたら、彼らと知り合うことはなかったと思います。特にドイツの文化やドイツ人の考え方に触れ、ドイツ語を使って話したという体験は、忘れられない思い出になりました。これからも様々なことに挑戦して、楽しい学生生活を送りたいと思います。



右から二人目が筆者

部長 広瀬 敬清

軽音楽部

私達軽音楽部は、部員約40名と、北海道情報大学の中でもかなり大規模なサークルです。

基本的に普段の活動内容は自由ですが、年に7～8回程度、定期ライブを企画するので、それに出演するためにみんな練習をしています。

定期ライブには、軽音楽部のメンバーで組んだバンドが、毎回約7バンド程度が出演します。コピーバンドからオリジナルバンドまで、それぞれ個性的な演奏を披露します。

また、実際にライブハウスなどで活躍しているバンドを定期ライブに招待して、プロの演奏を間近で感じ、それを目標に次のライブを目指して練習します。

軽音楽部のライブは、基本的にチケットフリーなので、部員だけではなく、様々な人が軽音楽部のライブに足を運んでくれます。そして、部員と観客が一体となって大いに盛り上がります。

軽音楽部の一番の魅力は、たくさんの音楽に触れることができる。そして、音楽を通してたくさんの人たちと交流することができることです。部活内の人間とはもちろんですが、他大学の軽音楽部との交流や、札幌のライブハウスなどで音楽活動をしているバンドの人たちとも交流する機会があります。

音楽といえば、楽譜を読んだり、ギターの基本練習をしたりなど、難しいイメージがあると思います。しかし、軽音楽部に入部する人間の半分以上は、ほとんどが初心者です。そして、入部して一年後には新入生に演奏を披露し、歓声を浴びていま

す。つまり、誰でも気軽に音楽ができるのです。

もちろん、軽音楽部で練習した成果を部活以外の場所で発表することもできます。実際に実力のついた人たちは、ライブハウスなどの企画に出演して、自分の実力を試します。

軽音楽部のOBの人たちは、大学を卒業した後も音楽活動を続けています。軽音楽部での活動が社会に出た後でも役に立つことは少なくありません。

音楽活動以外にも、キャンプや温泉旅行など、部員同士の交流を図るためにたくさんのイベントを計画しています。

◎軽音楽部 ライブスケジュール (予定)

- 6月 新入生歓迎ライブ
- 8月 お披露目ライブ
- 9月 夏休みライブ
- 12月 定期ライブ
- 12月 3大学合同ライブ
- 2月 4年生追い出しライブ



サッカー部

部長 木下 敬介

北海道情報大学サッカー部キャプテン、木下です。サッカー部は3部リーグにて活動しています。サッカー部の活動としては週に2回。土日に練習試合、大会などを行っています。主な練習メニューとしては4時15分頃から7時頃まで、ミニゲームや、集まったメンバーと話し合って練習メニューを決めて練習をしています。マネージャーも二人いて、水を運び、道具の管理などしてくれています。

情報大サッカー部は3部リーグでも強い！と言えるチームではありません。大会では下位から数えたほうが早い。そんなチームです。けれど、どこのチームより楽しいサッカーができています。

僕個人としては、サッカーを楽しむだけではなく、サッカーを通して、4年の間に人として成長してほしいと思います。大学のサッカーというのは、選手がチームを管理して活動しているチームがほとんどです。与えられた仕事をやらなくては

大会にも出場することもできない、試合も行えない、ということになっています。一人ひとりが与えられた仕事をしっかりと行うことで、大会などの参加が許可されます。そういった活動がチーム一人ひとりを成長させてくれるとも思いますし、将来必ず大切な経験になると思います。

これからの活動としては、9月から3部リーグ内での大会があります。毎週のように大会はいるので、大変ですが、みんなでひとつひとつがんばっていこうと思います。サッカー以外の活動では、大学付近のゴミ拾いなど、大学だけではなく、町に喜ばれる活動を行っていこうと思います。

数人の部員しかいないサッカー部ですが、みんながみんなサッカーをやってきた人ではありません。けれどサッカーをやりたいという気持ちの強い人、サッカーが好きだという人が集まったことを僕はとてもうれしく思います。ありがとうございます。



平成18年度情報通信月間

「森の写真でカレンダー」

総務省が後押し、情報通信月間推進協議会が主催する情報通信月間が、今年も5月15日～6月15日の1カ月間開催されました。日本全国でこの期間内に、多くの団体が様々な行事が行われますが、今年も本学はイベントで参加しました。北海道情報大学としては今年で4回目の参加となります。

今年のイベントは6月17日(土)に「森の写真でカレンダーを作ろう!」と題して実施されました。情報通信月間の期間からはちょっとはずれた開催にはなりませんが、近隣の野幌小学校の児童・保護者を中心に江別市近隣の方が参加してくださいました。江別は野幌原始林に抱か

れた街です。180万人都市札幌から車で30分の位置にありながら、先人の努力の甲斐あって太古の森が残る、世界的に見ても特筆すべき自然環境に恵まれています。本学もキャンパスの敷地が原始林に境界を接しています。そこで今年はこの原始林の写真をデジタルカメラで撮影し、それをコンピュータに取り込んでカレンダーを作成するイベントを実施することにしました。

まず。原始林での写真撮影です。当日は前日までの雨も上がり、時折青空がのぞく、ますますのお天気でした。小学校の授業などで普段から森に慣れ親しんでいる子供達に先導されるようにして森に



野幌原始林で写真撮影

を作ろう!」で参加

分け入りました。森の中に野幌小学校のPTAが作成した机と椅子が設置されているオープンスペースがあり、そこでデジタルカメラの使い方をレクチャー。後は自由撮影です。子供が自然を見つめる視点の斬新さに、驚いたり感心したりしながらの撮影タイムでした。

撮影後は大学のマシンを使ってのカレンダーの作成です。まず写した写真をマシンに取り込みます。取り込んだ写真にコンピュータソフトを使って加工をほどこし、さらにカレンダーの日付を追加してプリントしました。2006年7月のカレンダーから作り始めましたが、参加者によっては、楽しくてもう止まらなくて、

とうとう2008年のカレンダーまで作ってしまった、という児童もいました。

今やコンピュータは身近な存在でありながら、まだまだ道具として使い切れないことが多い中、特に小学生にとって自分の写真がカレンダーになるというのは、コンピュータ利用の楽しい一面を見いだすきっかけになったのではないのでしょうか。また次年度に向けて、さらに地域との交流を深めた形で、情報リテラシーの裾野の拡大・向上に寄与していきたいと思えます。

(総務課)



大学のコンピュータでカレンダー加工に挑戦

平成18年度 同窓会総会・懇親会を開催

第一期生・同窓会幹事 徳永 雅生

『大学を卒業して何年たったのだらう』と、真剣に考えるほど仕事に東奔西走(?)している今日この頃です。それでも、同窓生に会うと一気に学生の頃にタイムスリップしたかのように当時のことを鮮明に思い出すことができます。

そんな私も卒業して13年が経ち、この度は幹事として活動させていただいております同窓会について紹介したいと思います。

先日、平成18年7月1日(土)に、京王プラザ札幌(第一期生の坂本謙治さんが勤務しております。皆さんで大いに活用しましょう)にて、平成18年度北海道情報大学同窓会総会および懇親会が行われました。学生時代とは違い、なかなか自由な時間をとることが難しく多くの出席



が望めない状況ではありますが、当日は同窓会員はもとより井野学長をはじめ多くの教職員の方々に参加いただき、総勢約

60名での開催となりました。総会では同窓会の活動実績や次年度の活動予定などの報告が行われ、その後第三代学長の 大野公男様からご挨拶を頂き懇親会が始まりました。懇親会では年代を問わず会場のあちらこちらで学生時代の武勇伝で盛り上がり、また現在の状況など情報交換が行われ、終始和やかな雰囲気の中行われました。

同窓会活動につきましては、同窓会のホームページでも随時ご案内しております。本学のホームページからリンクされておりますので、多くの方にご覧いただければ幸いです。

本学の更なる発展のためにも、同窓会活動をさらに充実させていきたいと考えております。同窓生はもちろん在校生の皆様にも、同窓会活動への参加を心よりお待ちしております。

北海道情報大学同窓会ホームページ
<http://www.hiu-dosokai.net/>



同窓会活動につきましては、同窓会のホームページ

◆◆教職員の動向◆◆

4月1日付

《教員》

(就任)	情報メディア学部長	中岡快二郎
	研究科長	新保 勝
	図書館長	関 正治
	就職部長	立花 峰夫
	医療情報学科主任	長井 敏行
	情報メディア学科主任	坂上 修二
(採用)	特任教授	藤家 壯一 (経営ネットワーク学科)
	教授	原 暉之 (経営ネットワーク学科)
		中林 秀和 (医療情報学科)
		大島 康彰 (情報メディア学科)
		向田 邦茂 (情報メディア学科)
		長尾 光悦 (医療情報学科)
(昇任)	教授	梅津 真 (システム情報学科)
		藤井 敏史 (医療情報学科)
		高野 俊夫 (情報メディア学科)
	助教授	高瀬 央 (経営ネットワーク学科)
	講師	齋藤 健司 (システム情報学科)
	教授	加藤喜久子 (経営ネットワーク学科)
		加納 邦光 (情報メディア学科)
		新保 勝 (情報メディア学科)
		外山 清高 (システム情報学科)
		長井 敏行 (経営ネットワーク学科)
		浪田克之介 (システム情報学科)
		浜舘 久志 (経営ネットワーク学科)
		藤井 敏史 (システム情報学科)
		向原 強 (経営ネットワーク学科)
		森 康一 (経営ネットワーク学科)

《職員》

◇法人本部◇

(昇任)	経理課経理係主任	石田 英弘
(配置換)	財務課	前 裕子 (入試課)
	北海道情報専門学校	川村 弘司 (広報室)

◇大学事務局◇

(就任)	通信教育部事務部長	岡本 徳男 (北海道情報専門学校)
(兼務)	入試課長	大橋 正典 (広報室長)
(昇任)	会計課経理係主任	長坂 綾子
	教務課教務係主任	佐藤 正英
	通信教育部事務部教務係主任	笠羽 弘城
	広報室主任	松尾 俊樹
(配置換)	教務課長	木田 洋 (通信教育部事務部長)
	総務課企画交流係長	吉村 美穂 (法人本部企画調査室係長)
	学生サポートセンター事務室係長(就職担当)	小川 勝利 (北海道情報専門学校)
	入試課	堀川美代子 (通信教育部事務部)
	通信教育部事務部	加藤なつ子 (法人本部財務課)

◆◆4月1日～7月1日主要行事◆◆

◇法人本部

5月15日(月)～20日(土)	監査法人トーマツ 「平成17年度決算監査」
26日(金)	理事会

6月12日(月)～13日(火) 会計検査院 「実地検査」

◇大学院◇

4月 5日(水)	研究科委員会
10日(月)	前期授業開始
11日(火)	大学院特別科目等履修生説明会
22日(土)	教育センター長推薦入試
24日(月)	研究科委員会

5月20日(土) 推薦入試

6月19日(月) 研究科委員会

◇大学◇

4月 3日(月)	辞令交付
5日(水)	平成18年度入学式
6日(木)	新入生ガイダンス
7日(金)～8日(土)	新入生宿泊研修
8日(土)	2・3学年学生ガイダンス
10日(月)	前期開講
11日(火)～14日(金)	定期健康診断
14日(金)	経営情報学部教授会
21日(金)	情報メディア学部教授会
28日(金)	全学教授会
5月 9日(火)	公開講座「第1回 投資って何? -ポータフォリオ・マネージャーの実

	践的投資論-」(会場:札幌サテライト)
12日(金)	経営情報学部教授会
16日(火)	公開講座「第2回 投資って何? -ポータフォリオ・マネージャーの実践的投資論-」(会場:札幌サテライト)
19日(金)	情報メディア学部教授会
23日(火)	公開講座「第3回 投資って何? -ポータフォリオ・マネージャーの実践的投資論-」(会場:札幌サテライト)
27日(土)	公開講座「第1回 体験! デジタルビデオ編集」
30日(火)	公開講座「第4回 投資って何? -ポータフォリオ・マネージャーの実践的投資論-」(会場:札幌サテライト)
31日(水)	保護者の会役員会
6月 3日(土)	公開講座「第1回 デジタルカメラで写真を楽しむ-撮影と加工-①」
4日(日)	公開講座「第2回 デジタルカメラで写真を楽しむ-撮影と加工-①」
6日(火)	公開講座「第5回 投資って何? -ポータフォリオ・マネージャーの実践的投資論-」(会場:札幌サテライト)
10日(土)	創立記念日
13日(火)	公開講座「第6回 投資って何? -ポータフォリオ・マネージャーの実践的投資論-」(会場:札幌サテライト)
16日(金)	経営情報学部教授会
17日(土)	公開講座「第2回 体験! デジタルビデオ編集」
	情報通信月間参加行事「親子パソコンお絵かき教室～オリジナルカレンダーを作ろう～」
20日(火)	公開講座「第7回 投資って何? -ポータフォリオ・マネージャーの実践的投資論-」(会場:札幌サテライト)
21日(水)～22日(木)	体育祭
23日(金)	情報メディア学部教授会
24日(土)	公開講座「第3回 体験! デジタルビデオ編集」
	公開講座「第1回 文化から見た日本と世界」(会場:札幌サテライト)
27日(火)	公開講座「第8回 投資って何? -ポータフォリオ・マネージャーの実践的投資論-」(会場:札幌サテライト)
30日(金)	全学教授会
7月 1日(土)	公開講座「第4回 体験! デジタルビデオ編集」
	公開講座「第2回 文化から見た日本と世界」(会場:札幌サテライト)

◇通信教育部◇

4月20日(木) 名古屋教育センター大学見学

◆◆主な来学者◆◆

5月24日(水)	北海道栄高校(大学見学:学生29名、教員3名)
6月13日(火)	月形高校(教員4名)
15日(木)	とわの森三愛高校(志望校体験ツアー:学生1名)
20日(火)	石狩翔陽高校(上級学校見学:学生39名、教員2名)
21日(水)	虻田高校(大学見学:学生1名)
22日(木)	室蘭東翔高校(上級学校見学:学生25名、教員2名)
22日(木)	野幌高校(大学進学体験:学生10名)
22日(木)	大樹高校(大学見学:学生1名)
23日(金)	野幌高校(大学進学体験:学生33名)
23日(金)	大樹高校(大学見学:学生1名)
23日(金)	釧路工業高校(教員1名)
28日(水)	北海道高等ろう学校(大学見学:学生1名、教員1名)
30日(金)	札幌新陽高校(学校見学:学生23名、教員1名)

◆◆広報活動◆◆

<北海道情報大学通信教育部入学説明会:本学独自>

<進学相談会>

4月:北海道 4会場(旭川、北見、釧路、帯広)

5月:北海道11会場(枝幸、紋別、網走、函館(2)、札幌(2)、帯広、釧路、旭川、北見)

岩手県 1会場(盛岡) 秋田県 1会場(秋田)

6月:北海道16会場(旭川、北見、浦河、根室、中標津、帯広、釧路、小樽、函館、苫小

牧、室蘭、札幌(2)、留萌、名寄、稚内) 岩手県 1会場(盛岡)

青森県 4会場(青森(2)、弘前、八戸) 新潟県 1会場(新潟)

<高校内ガイダンス>

4月:北海道 2校

5月:北海道 10校、千葉県 3校、埼玉県 1校、神奈川県 1校

6月:北海道 18校、神奈川県 1校、埼玉県 2校、千葉県 1校

<高校出張授業>

6月:北海道 3校(江別高校、クラーク記念国際高校(大通キャンパス)、えりも高校)

<高校訪問>

4月:北海道 79校 5月:北海道282校 6月:北海道 60校

<AO入試・奨学金説明会>

6月 4日(日) 本学

<オープンキャンパス>

5月28日(日) 函館、帯広、釧路、旭川、北見 6月25日(日) 本学

<教員対象大学説明会>

6月23日(金) 東京(15校15名)

編集後記

本学は開学以来着実に歴史を重ね18年目に入りました。その間、色々な困難に直面しましたが、体育祭も大学祭も殆ど途切れること無く、定員割れにもならず今日を迎えました。あと2年で成人式といったところです。「ななかまど」は、広報誌であると同時に本学の歴史を記す貴重な資料です。賢者は歴史に学ぶと申します。過去と未来を結ぶ架け橋となり、本学の発展と地域の振興に貢献できれば幸いです。読者のみなさまの積極的な参加をお願いします。(S)